



▲西朝日岳から大朝日岳を望む

森林の取扱い

森林生態系保護地域は、保存地区と保全利用地区に区分しています。

1 保存地区は、保護地域の核となる部分で、モニタリング、非常災害のための応急措置として行う行為など以外は、原則として人手を加えず自然の推移に委ねることとしています。

高山帯及び湿原地帯では、既設の登山道のみ利用できます。これ以外の森林等への立ち入りはできませんが、植物の採取、樹木の損傷、たき火など生態系に悪影響を及ぼすおそれのある行為はできません。

2 保全利用地区は、保存地区の森林に外部の影響が直接及ばないよう緩衝の役割を担っています。木材生産のための伐採は行いませんが、自然観察、森林浴など森林レクリエーションの場としては利用します。

かけがえのない自然
大切な森林を
みんなで
守り育てましょう

朝日山地 森林生態系保護地域



朝日山地森林生態系
保護地域位置図



凡	例
森林生態系保護地域	
国有林	
県境	

東北森林管理局

〒010-8550
秋田市中通五丁目9番16号
☎018 (836) 2206
<http://www.touhoku-shinrin.com/>

庄内森林管理署

〒997-0015
山形県鶴岡市末広町23-37
☎0235 (22) 3331

山形森林管理署

〒991-0053
山形県寒河江市元町1-17-2
☎0237 (86) 3161

置賜森林管理署

〒999-1362
山形県西置賜郡小国町大字緑町4-6-1
☎0238 (62) 2246

関東森林管理局

〒371-8508
前橋市岩神町四丁目16番25号
☎027 (210) 1170
<http://www.fakanto.go.jp/>

下越森林管理署村上支署

〒958-0033
新潟県村上市緑町3-1-13
☎0254(53)2151

朝日庄内森林環境保全
ふれあいセンター
〒997-0404
山形県鶴岡市下名川字村下97
☎0235(58)1806



平成15年3月設定

東北森林管理局・関東森林管理局

森林生態系保護地域は、国有林のうち、原生的な天然林を保存することにより自然環境の維持、動植物の保護、遺伝資源の保存、学術研究などに役立てるとともに、これらの森林を後世に引き継ぐことにしています。

この地域は、山形県、新潟県にまたがる朝日山地の中核部に位置する国有林です。

朝日山地は、主峰大朝日岳(1,870m)から西朝日岳(1,814m)、寒江山(1,694m)などの高峰を経て、以東岳(1,771m)に至る朝日連峰の主脈と四方に広がる支稜、支脈の総称で、ブナ林等原生的な自然が保存されています。

朝日山地の動植物

植物

この地域は、日本海側多雪山地の植生分布の特徴をもっています。

標高1,200m以下の低地ではブナ林が優勢し、ヒメヤシャブシ・タニウツギ群落や雪崩植生が見られます。標高1,200m~1,400m以上の山地帯では、ナナカマド・ミネカエデ、ミヤマナラ、チシマザサなどの低木群落からなる偽高山帯が成立しています。標高1,600m以上の高地は、ハイマツ、雪田植物、風衝草原等の群落がみられます。



▲ヒメサユリ



▲ミヤマウスユキソウ



▲朝日川流域のブナ林

朝日山地森林生態系保護地域図



単位：ha

森林生態系保護地域	凡 例		合 計
	森林管理局		
	東 北	関 東	
保存地区	15,535.80	12,293.12	27,828.92
保全利用地区	32,695.17	9,425.65	42,120.82
合 計	48,230.97	21,718.77	69,949.74

動物

この地域は、広大な面積に加えて標高差も大きく、地形も多様であることから生息する動物相も多様であり、ニホンカモシカ、ヤマネ、ホンドオコジョなど多くの哺乳類が生息しています。

鳥類では、イヌワシのほかクマタカ、オオタカ、ハヤブサなどが見られ、また、特産種の昆虫としてアサヒナガチビゴミムシ、ババナガチビゴミムシなどが生息しています。



▲イヌワシ

▶上倉山の大きクロバ

